



患サポ通信

— ささえちゃん便り —



第 124 号



ささえちゃん

鈴虫の澄んだ声をしばしば耳にする季節となりました。
今月号は、『ふくしま病院連携ネットワーク』のご紹介をいたします。

設立経緯及び目的

ふくしま病院連携ネットワークは、東日本大震災という教訓を受け、平時からの連携と有事の際にも実用性のある福島型の地域連携を進めることを目的とし、平成25年10月25日に設立されました。

被災時においても、以下 3 点の実施できる環境づくり、病院間の連携業務を停滞なく遂行できる体制構築を目指した運営が行われてきました。

1. 有事でも使える情報手段の確保
2. 医療施設(受け容れ可否など)の情報把握、共有化
3. 被災地の需要の把握、情報収集

有事の連携強化は、平常時の連携なくして語ることはできません。有事に備えた平常時の取り組みを重要視しています。

- 💡 円滑な連携
- ▶ 連携実務者同士が顔の見える関係性づくり
- 💡 患者の希望に沿える紹介、逆紹介
- 💡 自院に無い機能(PET、特殊な診療科など)の共同利用
- 💡 有事に備えた常日頃からのネットワークづくり

現在の組織体制

《加入病院》県内 105 病院

《代表病院》福島県立医科大学附属病院

《幹事病院》北福島医療センター、大原綜合病院、福島赤十字病院、太田西ノ内病院、
(17病院) 総合南東北病院、寿泉堂綜合病院、星綜合病院、白河厚生総合病院、
塙厚生病院、会津中央病院、会津医療センター附属病院、竹田綜合病院、
県立南会津病院、公立相馬綜合病院、南相馬市立綜合病院、
いわき市医療センター、福島労災病院 (敬称略・順不同)

《顧問》福島県(保健福祉部)、福島県医師会、福島県病院協会

《事務局》福島県立医科大学附属病院 患者サポートセンター

これまでの事業展開

年 1 回程度、総会に合わせて講演会の開催などに取り組んできました。

- ✓ 震災後の状況と課題報告会(相双、いわき、中通り、会津)
- ✓ 災害関連の講演及びワールドカフェ
- ✓ 地域連携に関する講演及びグループワーク
- ✓ EMIS に関する行政説明
- ✓ 「実務者の会」設置
- ✓ 地域連携担当部署連絡先一覧の整備 など



令和 5 年度は、県内二次医療圏(相双・いわき・県北・県中・県南・会津)の会場をオンラインでつなぎながら、各圏域に属する医療機関の連携実務者にお集まりいただき、圏域単位の連携ネットワーク立上げ構想をするというグループワークを行っていただきました。



令和 6 年度取組み「二次医療圏の連携強化促進事業」の展開

圏域単位での連携ネットワーク構築を推進するために、当該圏域に属する加入病院を対象とした二次医療圏ごとの事業展開を行っていきます。なお、事務局におきましても圏域ごとの担当者を配置し、事業が円滑に遂行できるようお手伝いさせていただきます。

	事業のねらい
会 津	(病院情報の共有)(ICT 化の検討)(他圏域との連携)
県 北	既存の県北地域医療連携ネットワーク運営強化
県 中	(病院機能分化)(急性期～回復期～慢性期スムーズな患者紹介) (ナレッジ共有)(顔の見える連携)
県 南	(病院機能及び特徴の相互理解)(顔の見える連携) (県外含めた他圏域との連携)(医療介護福祉の連携)
相 双	(郡市町村の垣根を超えた顔の見える連携)(病診連携) (MSW のスキルアップ)(既存の合議体を有効活用)
いわき	(ナレッジ共有)(一般病院と精神科病院の連携)(病院機能分化) (急性期～回復期～慢性期スムーズな患者紹介)

皆さまのご理解ご協力の程、よろしくお願いいたします。

